

令和2年8月13日

環境省

総合環境政策統括官 和田 篤也 様

静岡県中央新幹線対策本部長

静岡県副知事 難波 喬司

「リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議」においてJR東海が行った水収支解析について

日頃から本県の環境行政の推進にあたり、御支援、御助言いただき、誠にありがとうございます。

さて、国土交通省が設置した「リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議」には貴省もオブザーバーとしてご参加されていると認識しております。

7月16日に開催された第4回の有識者会議において、JR東海が行った水収支解析によれば、南アルプス国立公園の特別保護地区及び特別地域内の地下水位が300m以上低下する、との資料が示されました。この内容は、環境影響評価書に示されていないもので、本県としても初めて目にしたものです。実際にこれほどの地下水位が大幅に低下することになれば、ユネスコエコパークに登録されている南アルプスの生態系へどの程度の影響が出るか計りかねております。

貴省におかれては、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）に係る環境影響評価書に対する環境大臣意見（2014年6月）」において、「特に、山梨県から長野県にまたがる地域の一部は、我が国を代表する優れた自然の風景地として南アルプス国立公園に指定されており、また、ユネスコエコパークとしての利用も見込まれることから、当該地域の自然環境を保全することは我が国の環境行政の使命でもある。」と述べ、2.2水環境（水質、地下水、水資源）において、「山岳トンネル部の湧水対策は、事前に精度の高い予測を行った上で対策を検討しておく必要があることから、特に巨摩山地から伊那山地までの区間においては、本線及び非常口のトンネル工事実施前に、三次元水収支解析を用いてより精度の高い予測を行い、その

結果に基づき、地下水位及び河川流量への影響を最小化できるよう水系を回避又は適切な工法及び環境保全措置を講じること。」とされています。

第4回有識者会議において、J R 東海が行った水収支解析の計算条件や計算結果の詳細が明らかにされた結果、前述のとおり、地下水位が 300m 以上低下すると結果が明らかになりました。ただし、解析における初期の地下水位（工事前）は実測値ではなく、計算上の推定値であり、工事中、工事後の地下水位計算結果もいくつかの仮定を置いた上での計算値であること、また、J R 東海のモデルでは、断層等の地質構造を踏まえた地下水位の変化は考慮できていないことなどから、計算結果の信頼度については不確実性が高いと考えております。地下水位の低下については、静岡市が別のモデルを用いて解析したものがありますが、その解析結果では、断層に沿って地下水位が低下しており、J R 東海のモデルとは明らかに解析結果が異なります。

前述のとおり、地下水位の影響範囲は南アルプス国立公園の特別保護地区等に及ぶことから、同地区の風致景観や希少な野生動植物に影響を与えることが懸念されます。県として、J R 東海が行った水収支解析に基づく地下水変化の計算結果について、更に検証を進めていく方針ですが、その参考として、本問題についての貴省の取扱い方針について、御教示賜りたく存じます。

<参考 1> 静岡市の解析結果

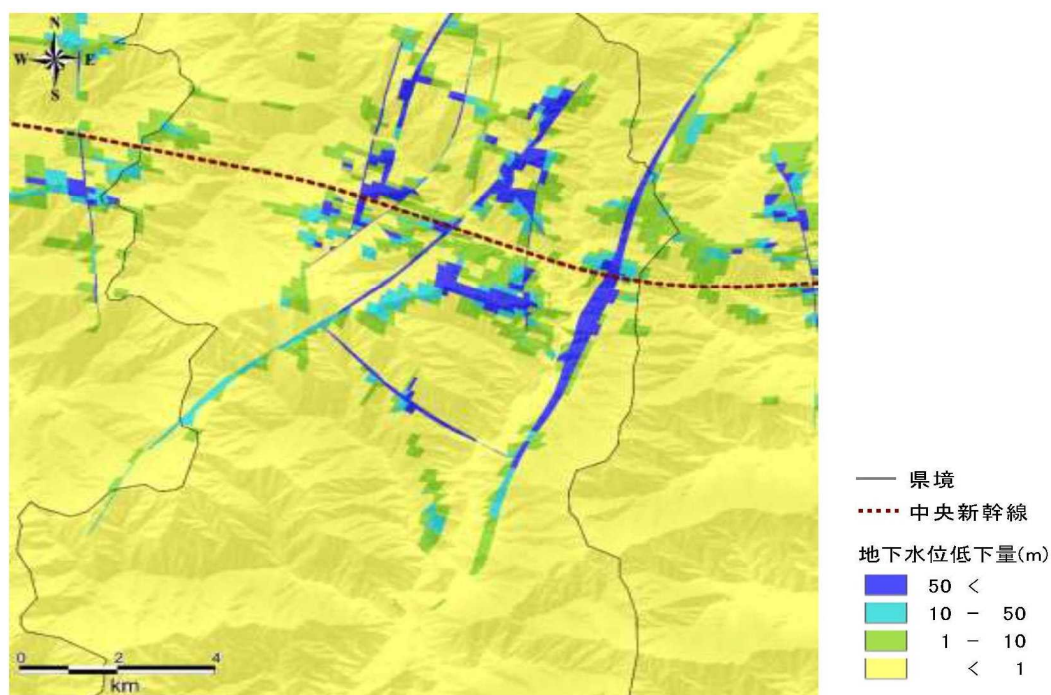
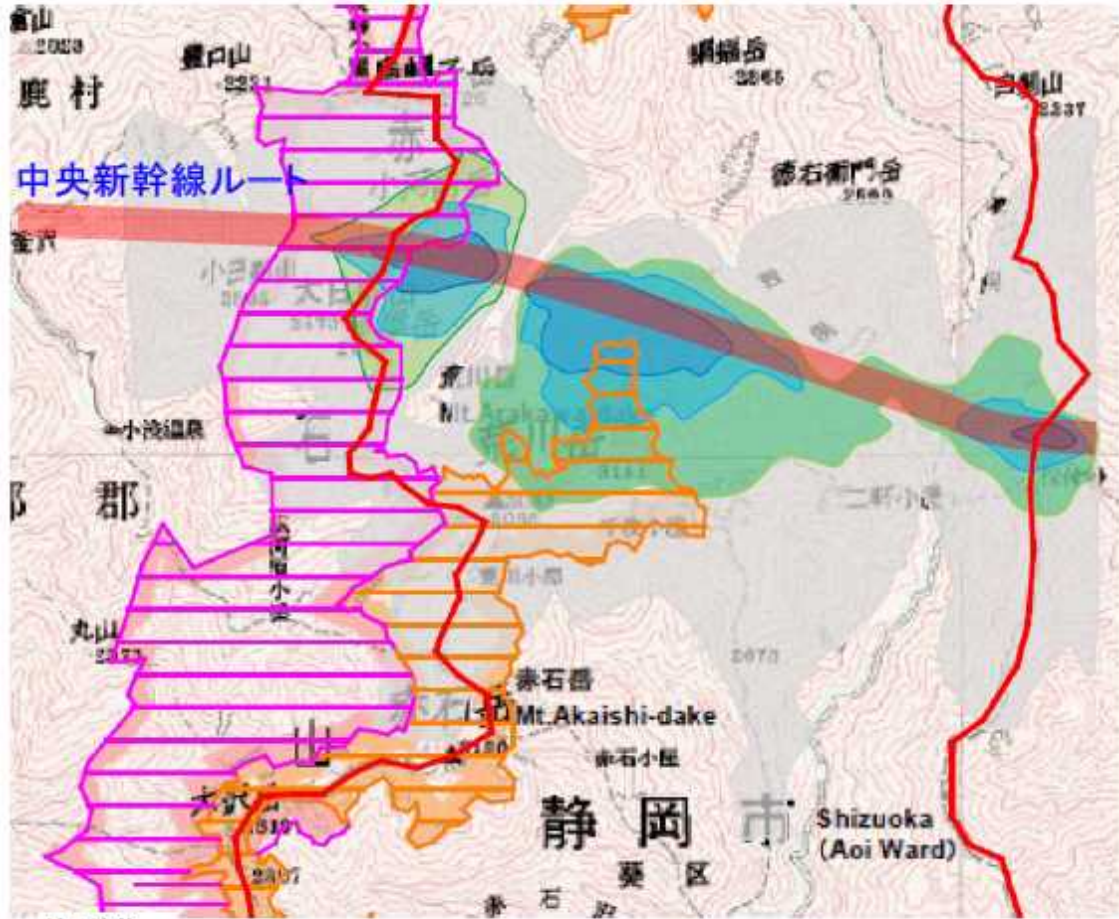


図 10 地下水位の低下量分布（低水期：導水路トンネルまで掘削）

（本坑トンネル、導水路トンネル付近のみの拡大図。現況との差を示す。断層沿いに地下水位の低下が生じている。）

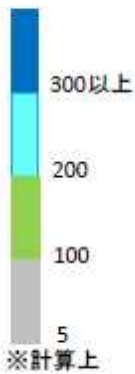
<参考2> J R 東海の解析結果 (J R 東海資料に静岡県が規制区域の範囲を加筆)

○地下水位 (計算上) 予測値低下量図 (トンネル掘削完了20年後)



地下水位
低下量(m)

* 第4回リニア中央新幹線静岡工区有識者会議 JR東海資料に静岡県が加筆



南アルプス国立公園 規制区域

凡 例	
	特別保護地区 Special Protection Zones
	特別地域 Special Zones